

平成28年1月8日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ  
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全  
 (コード番号：8732 東証第一部)  
 問合せ先 取締役CFO 中西 典彦  
 (TEL. 03-4540-3804)

### 平成27年12月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成27年11月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

#### 記

年 月	平成 26 年											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
営業収益 (単位：百万円)	513	435	416	345	320	303	346	313	507	581	512	523
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	141,934	116,780	99,614	80,006	66,673	53,476	52,025	61,788	121,116	146,935	172,500	180,985
顧客口座数 (単位：口座)	232,518	234,192	235,807	237,340	238,815	240,435	242,160	243,854	245,880	247,587	249,193	251,189
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	44,144	44,250	44,348	44,177	44,098	44,561	45,128	45,214	45,649	46,290	46,008	47,359

年 月	平成 27 年											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
営業収益 (単位：百万円)	593	440	534	470	456	544	510	552	558	464	387	490
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	164,450	87,835	93,958	80,634	80,504	92,881	83,564	89,674	95,887	71,822	55,460	64,288
顧客口座数 (単位：口座)	253,179	254,732	256,494	258,189	259,825	261,736	263,685	265,521	267,463	268,916	270,219	271,544
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	48,114	47,653	47,961	48,896	48,707	50,101	50,236	48,253	52,815	51,725	50,355	49,480

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っていません。
2. 顧客口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 平成20年5月より代用有価証券の取扱いサービスを開始し、外国為替証拠金取引に使用できる代用有価証券の預り残高が発生しておりますが、現時点では外国為替取引預り証拠金の残高と比べ重要性が小さいため記載を省略しております。
4. 平成21年7月から平成26年10月まで株式会社大阪取引所の開設する取引所外国為替証拠金取引（愛称「大証FX」）のマーケットメイカーとしての業務を行っており、大証FXにおける取引高及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
5. 平成23年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。

#### <12月次の概況>

12月の外国為替市場は、米ドル／円については、1ドル＝123円台前半で取引が始まり、123円を挟み小動きで推移した後、原油先物相場の大幅に下落に伴う株式相場下落等からリスク回避の円買い等による円高が進展し、14日には120円台前半をつけました。その後、16日に開催された米国FOMCにて金利の引き上げが決定されるとドル買いが優勢となり122円台を回復しましたが、18日に開催された日銀金融政策決定会合の内容が波乱要因となり、一時123円台半ばの高値をつけた後円高に転じ、その後も年末の薄商いの中、原油相場や日経平均株価の低迷を背景に緩やかな円高傾向で相場が推移し、120円台前半で月末を迎えました。米ドル／円の月を通じての変動率は、中旬の相場変動が影響したことから変動率が回復し、前月及び前々月の水準を上回りました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、米ドル／円と同様変動率は回復し、米ドル／円を含めた全体としての変動率は、平成27年9月までの水準には及ばなかったものの、前月、前々月の水準を上回りました。

このような状況の中、外国為替取引高は、米ドル／円をはじめ概ね全ての通貨において増加し、前月比16%増加の642億通貨単位となりました。一方、営業収益は、相対的に収益性の高い通貨ペアの割合が増加したこと等により全体の取引高当たり収益性が向上し、前月比26%増加の490百万円となりました。また、顧客基盤については、顧客口座数はクリスマスから年末にかけての閑散期があったこと等の要因により前月比1,325口座増加の271,544口座と前月に続き鈍い増加ペースとなった一方、外国為替取引預り証拠金は、顧客ポジションに不利な方向への相場変動があったこともあり、前月末比874百万円減少の49,480百万円となりました。

以 上